©Akira Ito.aifoto

グラングリーン大阪 先行まちびらき ～「産総研・関経連うめきたサイト」で加速！関西のイノベーション創出～

「グランフロント大阪」が2013年に誕生してから10年あまり。2024年９月６日、うめきた２期地区開発事業「グラングリーン大阪」がうめきた公園や中核機能施設を中心に先行まちびらきし、事業は新たなフェーズに入った。

２期開発に関しては官民連携のもとさまざまな検討がなされ、当会もまちづくりの方針や中核機能と位置づけられたイノベーション創出に対して、意見発信や具体的な取り組みを継続的に行ってきた。

今号では、先行まちびらきの概要と、今般のまちびらきのタイミングで、イノベーション施設「JAM BASE」内に開設した「産総研・関経連うめきたサイト」で進める事業などを中心に紹介する。

うめきた２期の全体概要

連日活況を呈するグラングリーン大阪

開発が進められていた「うめきた（大阪駅北地区）」の１期区域が「グランフロント大阪」としてまちびらきしたのが2013年。それから10年あまりの時を経て、2024年９月６日、２期区域「グラングリーン大阪」の一部が先行まちびらきした。９月６日からの３日間、うめきた公園などで開催された記念イベントには、延べ約50万人が訪れるなど、連日活況を呈している。

９月３日には、大阪府・市、開発事業者、都市再生機構、西日本旅客鉄道主催による「うめきた２期区域 先行まちびらき記念式典」が開催された。来賓あいさつに立った当会の松本正義会長は「素晴らしい緑の景観を目の当たりにし、このま

先行まちびらき記念式典の様子　提供：グラングリーン大阪開発事業者

ちが関西の新たな魅力となることを確信した」と述べるとともに、「2025年大阪・関西万博の開幕を前に、世界中から人が集えるイノベーション拠点が設けられた意義は大きい」と語った。

グラングリーン大阪の最大の特徴は、敷地の中心に配置された約4.5haのうめきた公園。グランフロント大阪はもちろん、新梅田シティ、JR大阪駅とも接続されている（図）。昨年3月にはJR大阪駅のうめきた地下口と、特急「はるか」や「くろしお」が停車する（うめきたエリア）地下ホームが開業。関西国際空港や和歌山方面からのアクセスが大きく改善され、グラングリーン大阪は、まさに関西の玄関口としての役割を増した。

うめきた２期、開発の検討はどう進められた

オフィス、ホテル、商業施設、イノベーション（中核機能）施設、分譲住宅、都市公園などが複合開発されるグラングリーン大阪は、関西全体の成長力の強化に資する大プロジェクトである。関西の命運を握るといっても過言ではない、この２期地区開発はどのように検討が行われ、進められてきたのか。主な動きを振り返る（表）。

２期地区開発の検討は、当会も参画する、大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会大阪駅周辺地域部会にて、まちづくりの目標として「みどりとイノベーションの融合拠点」を掲げて2015年３月に決定した「うめきた２期区域まちづくりの方針」をもとに進められた。この方針を決定するにあたり、当会は、適正なみどりとイノベーションのあり方について提案を行った。

表 うめきた２期地区開発の主なあゆみ

2015年３月	「うめきた２期区域まちづくりの方針」決定
2017年６月	「うめきた２期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」設立
2018年７月	うめきた２期民間開発事業者決定
2020年12月	民間開発工事着手
2022年９月	「うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）」設立
2023年２月	プロジェクト名称を「グラングリーン大阪」に決定
2023年３月	JR大阪駅（うめきたエリア）地下ホーム開業
2024年９月	グラングリーン大阪 先行まちびらき
2025年３月	グラングリーン大阪 南館開業
2027年度	全体まちびらき

図 グラングリーン大阪 都市機能配置図

提供：グラングリーン大阪開発事業者

とりわけイノベーション創出機能については当会も検討に深くかかわっており、2017年６月には「うめきた２期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」を当会の専務理事を代表として設立した。同協議会の後継組織として2022年９月に設立された、官民連携のイノベーション組織「一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U－FINO）」にも当会は理事として運営に携わり、まちびらき後の取り組みなどについて関係者と検討を重ねてきた。また、まちびらき後の展開を見据えたトライアル事業として、2020年度から当会が中心となり「うめきた響合の場」を開催している。これは、企業、大学、支援機関等のオープンイノベーション部門の窓口が縁日の「出店（でみせ）」のように集まる場を交通至便なうめきたに設け、スタートアップ等がそこで提案や相談を行えるようにすることで、イノベーションの創出につなげようとする試みである。昨年、フードテックをテーマに開催した「第４回うめきた響合の場」には、13の企業・大学・支援機関等が「出店」として参画。スタートアップ等と実施した面談は72件にのぼった。今後もU－FINOと緊密に連携をはかり、イノベーション創出に向けた事業に貢献していく。

先行まちびらき：注目施設を紹介

先行まちびらきでオープンしたのは、開発面積全体の約４割。うめきた公園の一部（サウスパークの全面、ノースパークの一部）、北街区のホテル、イノベーション創出をめざす中核機能施設である「JAM BASE」と、商業施設である。そのほか、天井高が15mある展示スタジオなどで構成され、地下に約1,400㎡の空間を擁する、建築家の安藤忠雄氏が設計監修した新しい文化装置「VS.」もオープン。今後、世界に向けた企画展やイベント、イノベーションプロジェクトなどが開催される。さらに2025年大阪・関西万博の開幕を目前に控えた来年の３月には、南街区のオフィス、ホテル、コンベンション施設、商業施設、温浴施設などが開業する。全体のまちびらきは2027年度の予定となっている。

うめきた公園

グラングリーン大阪の中心に整備された約4.5haの「うめきた公園」は、全面開園時には大規模ターミナル駅に直結しているものとしては世界最大級の広さを誇る公園となる。広域避難場所としても機能する都市公園を整備することで、防災機能の向上をはかるとともに、圧倒的で比類なき「みどり」を中心としたまちづくりにより大阪の都市魅力の向上に貢献し、世界の人々を引きつける。

公園を運営管理する一般社団法人うめきたMMOは、企業連携制度「MIDORIパートナー」などを使った植栽管理や景観形成に加え、周辺道路の利活用やイベント等を通じたまちのにぎわい創出も担う。特にサウスパークには、「大屋根イベントスペース」や「芝生広場」等を中心に、四季折々の非日常体験を味わえる、シーズナルなイベントが誘致・開催される。そのほか、ゲート空間として、JR大阪駅から西口広場（うめきたグリーンプレイス）につながる歩行者デッキが開通している。

中核機能施設「JAM BASE」

グラングリーン大阪の中核機能と位置づけられ、経済界も重視している「イノベーション創出」を担う施設「JAM BASE」は、北館がその中心となっている。「まざまざ と さまざま が まざるさま」をコンセプトに、スタートアップ、事業会社、大学等の関係者が互いにまじり合うことでイノベーション創出をめざす。

うめきた公園に面する４層吹抜け空間を有する会員制交流スペース「Syn-SALON（シンサロン）」、登記可能なコワーキングスペース「JAM-DESK」、家具付レンタルオフィス「JAM-STUDIO」、少人数から最大285名まで利用可能な「カンファレ

Syn-SALON

JAM-DESK

カンファレンス

JAM-STUDIO

提供：グラングリーン大阪開発事業者

ンス」などの多様な空間が、利用者同士の交流が生まれやすいよう、まじり合うように設計・配置されている。施設運営は一般社団法人コ・クリエーションジェネレーターが、各種イノベーション創出事業はU－FINOが担う。

「産総研・関経連うめきたサイト」を設置！

関西広域のエコシステム強化の拠点に

すでに説明したとおり、当会では、うめきた２期地区のイノベーション創出機能についてさまざまな会議体で議論を深めてきた。さらに、2019年度に設置したベンチャー・エコシステム委員会では、関西全体のエコシステム構築のために進めてきた議論や取り組みをうめきた２期地区でいかに昇華させるかを、前述の「うめきた響合の場」の開催などを通じて検討してきた。

そうした活動をふまえ、「企業等の研究開発を具体的に支援する機能が求められている」「その機能を担う拠点はグラングリーン大阪のような交通の結節点にある方が、交流が生まれやすい」という結論に至り、当会から国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）にJAM BASEでの共同拠点設置を打診した。その後、両組織にて協議を重ね、2024年９月17日、当会と国立研究開発法人による初の共同拠点として「産総研・関経連うめきたサイト」を開所した。当サイトは各種面談や60名ほどの会議が可能なスペースで、企業ネットワークを有する当会と、豊富な研究シーズや国内最大の研究ネットワークを有する産総研が協力することで相乗効果を発揮し、関西広域のエコシステム強化をめざす。各組織の特色とJAM BASEのイノベーション支援機能を生かしつつ、大学、公設試験研究機関（公設試）、支援機関等と連携をはかることで、関西を中心とする大企業、中堅・中小企業、スタートアップ等のマッチングおよび事業化支援、事業共創を推進していく。

産総研・関経連うめきたサイト エントランス（右）、内部（左）

9月17日に実施した開所記念記者会見には、当会、産総研、そして産総研の研究成果を社会実装するために設立された株式会社AIST Solutionsの３者が出席し、うめきたサイトの活用および今後の連携に関して連携協定を締結。協定には、関西を中心とした産学官連携を促進し、イノベーションの創出とその社会実装を加速するため、３者で連携および協力を推進すること、わが国の産業技術の振興に寄与することなどが盛り込まれている。会見で松本会長は、「産総研が誇る、幅広い分野におけるトップクラスの研究ネットワークとリンクすることで、関西のエコシステムに大きな厚みを加えたい」と語り、産総研の石村和彦理事長は「関西の皆さまとともに、うめきたからイノベーションを創出していきたい」と決意を述べた。

関経連・産総研・AIST Solutionsの3者で連携協定を締結

うめきたサイトでは、当会・産総研・AIST Solutionsが中心となって事業を進めるとともに、関西広域連合により設立され、当会が事務局を務める関西の公設試の連携プラットフォーム「関西広域産業共創プラットフォーム(以下、関西広域PF)」も事業に取り組む。関西広域PFでは、企業の技術相談や開発、事業化のサポートを行っており、当サイトで活動することで、関西を中心とする大企業、中堅・中小企業、スタートアップ等と産総研や関西の公設試とのコーディネート機能の強化をはかる。イノベーション創出に向けたさまざまな取り組みが関西各地で行われているが、うめきたサイトでは、技術的なコンサルティング、技術シーズやイノベーション・エコシステムにかかわる情報発信のほか、多様な主体とマッチングできる機能を強みとし、事業を展開していく。

うめきたサイトで行う事業とは

産総研・関経連連携事業

企業の事業化ニーズと産総研の技術シーズのマッチングに取り組むため、産総研の技術シーズを広く発信し、テーマごとに大企業・スタートアップ等も参加するコミュニティーを形成して、企業と産総研の連携を促進する。これにより、オープンイノベーションによる事業共創を促し、最先端技術の社会実装を加速させる。産総研との連携事業の第一弾として「関西から世界へ～産総研と関経連の連携が拓く未来～」と題した、うめきたサイト開設記念セミナーを10月21日に開催した。産総研発のベンチャー企業で上場を成し遂げたイーディーピーと、産総研との連携研究室を設置している三菱電機がそれぞれ連携事例を紹介し、産総研との共同研究の特長やメリットをアピールした。そのほか、関西広域PFの事業についても紹介した。次年度からはバイオなどテーマを絞り、研究開発の促進に向けたコアなコミュニティーの形成をめざした取り組みを進めていく。

また、U−FINOやJAM BASEに入居するベンチャーキャピタル、事業会社、大学等とも連携し、関西発のイノベーション創出に向けた共同事業を実施する。

関経連、産総研独自事業

関経連では、大企業コミュニティーとスタートアップ等とのマッチングに取り組む。2020年度から開催しているピッチイベント「オープンイノベーションフォーラム」や「うめきた響合の場」は引き続き開催する。10月２日にはDXをテーマに、スタートアップと、VCやCVC、事業会社の新規事業担当者との交流事業をうめきたサイトにて実施した。また、「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」で当会と連携協定を締結している京都府舞鶴市や兵庫県丹波地域などが行っているイノベーション事業の発信の場としても当サイトを活用していく。そのほかDXや文化・観光をはじめ、当会の各委員会によるさまざまなテーマのセミナーや会合の会場としても活用する。

産総研では、AIST Solutionsおよび産総研の連携担当者が常駐し、関西企業への技術相談・技術コンサルティング等の支援を強化する。こうした事業に加え、関西の公設試および公的支援機関の連携・交流のハブとして活用する。

グラングリーン大阪は、観光の面でもイノベーション創出の面でも、関西の都市魅力の向上に資するまちであり、来春の南館の開業、2027年度の全体まちびらきにも期待が高まる。当会では、うめきたサイトにおいて産総研との連携を深め、関西の交通結節点であるという「うめきた」の地の利を最大限に生かし、イノベーション・エコシステムにおけるオール関西での連携を強化するとともに、首都圏や海外のエコシステムに携わる企業やVCなども積極的に巻き込み、活動の幅を広げていく。こうした取り組みを重ねることで、うめきたのハブ機能をさらに高め、イノベーションに携わる人の交流の増加、そして関西のイノベーション・エコシステムの強化につなげていきたい。

（産業部 大仲梓・山下善寛）